

授業科目	教育相談(カウンセリングを含む。)				実務家教員担当科目	-					
単位	2.	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期				
担当教員	大黒 剛										
授業概要	教育相談はカウンセリングの技術や知見を応用しながら、学校関係者が児童に行う実践的なコミュニケーションである。その対象は不適応や問題行動を示す児童生徒のみではなく、学校内のすべての児童生徒が対象となる。本科目では、コミュニケーションの原理やカウンセリングの基礎知識を学びながら、現在、子どもに関係するさまざまな社会問題についての理解とその対応について考える。										
授業形態	講義			授業方 法							
学生が達成すべき行動目標											
標準的 レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒と教員間のコミュニケーションについて理解を深め、カウンセリングの技術を使うことが出来る。 2. 学校内外で発生する子どもに関する社会的問題について理解を深めることが出来る。 3. 子どもの問題に対して具体的な援助計画を立てられるようになる。 <p>教育相談に関する基本的な知識を取得し、それを人に説明する事ができる。また、試験や事例問題にて、取得した知識を活かして回答できること。</p>										
理想的 レベル	教育相談に関する基本的な知識を取得し、その知識を活用して学生の進路指導および、学校内の問題（例えばイジメ、非行、不登校）解決に活用出できること。										
評価方法・評価割合											
評価方法		評価割合（数値）				備考					
試験		80%									
小テスト											
レポート		20%									
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物											
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリン グ	NT24113J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
復習：該当部分の復習										4	
授業計画											
第1回	<p>テーマ：学校教育相談とは(大黒 剛)</p> <p>現在、子どもとその保護者、また現場の教師はどのようなことで悩んでいるのか、学校教育相談の現状について解説する。</p>										

第2回	<p>テーマ：教育相談とコミュニケーションの原理(大黒 剛)</p> <p>教育相談の基礎的な理論を理解し、実戦で必要となる人と人の言葉のやり取りと、その受け答えに関する理論と展開を解説する。</p>
第3回	<p>テーマ：カウンセリングの基礎知識①(大黒 剛)</p> <p>カウンセリングの基本理論とカウンセリングマインドについて解説する。</p>
第4回	<p>テーマ：カウンセリングの基礎知識②(大黒 剛)</p> <p>不登校やいじめ問題を例題として、幼児や児童が発する危険シグナルを捉え、それに伴い教員が行う受動的な聞き方と能動的な聴き方の違いについて解説する。</p>
第5回	<p>テーマ：不登校、ニート、引きこもりの理解(大黒 剛)</p> <p>不登校の原因とその対応、および自己実現の心理学について解説する。</p>
第6回	<p>テーマ：非行少年の理解と対応(大黒 剛)</p> <p>非行少年の現状とその対応、および、非行少年少女とその親子関係について解説する。</p>
第7回	<p>テーマ：いじめの理解と対応(大黒 剛)</p> <p>いじめの定義、現状とその対応、および、いじめが及ぼす心理的影響について解説する</p>
第8回	<p>テーマ：児童虐待①</p> <p>児童虐待の現状と定義について解説する。</p>
第9回	<p>テーマ：児童虐待②(大黒 剛)</p> <p>児童虐待が子どもに及ぼす心理的影響について解説する。</p>
第10回	<p>テーマ：子どもの発達に即した対応①(大黒 剛)</p> <p>乳児期、幼児期の親子関係、特に愛着関係の形成、加ト、Iリクソの発達段階について解説する</p>
第11回	<p>テーマ：子どもの発達に即した対応②(大黒 剛)</p> <p>児童期、青年期の心理発達的特長と、友人関係、恋愛関係について解説する。</p>
第12回	<p>テーマ：心の傷と心の病①(大黒 剛)</p> <p>心の傷と心の病について、その基本的な違いについて解説する。</p>
第13回	<p>テーマ：心の傷と心の病②(大黒 剛)</p> <p>特に子どものうつ病に着目して、子どものうつ病の発生原因のメカニズムおよび、その対応について解説する。</p>
第14回	<p>テーマ：教育相談における社会的資源の活用(大黒 剛)</p>

	<p>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、および地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性について説明する。</p>
第 15 回	<p>テーマ：まとめ(大黒 剛) 教育相談で解説した内容から重点項目について説明する。</p>
テキスト	<p>特に指定はありません。資料を配布します。</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>一丸 藤太郎・菅野 信夫 著 『学校教育相談 (MINERVA 教育講座)』 ミネルヴァ書房 2002 年。 高野 清純・西 君子・國分 康孝 著『学校教育相談カウンセリング辞典』 教育出版 1994 年。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>試験およびレポートの内容については、授業の中で指示をする。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>授業に対する集中力、事例問題を解く為の柔軟的思考、およびコミュニケーション能力が大切です。 学校現場における時事問題（具体的な事例が望ましい）に関心を持ち、新聞やインターネットなどから情報を集めること</p>